

## インターバンクの声（2016年6月17日）

昨日、米連邦公開市場委員会 (FOMC) と日銀金融政策決定会合がともに金融政策の現状維持を決定したのは予想通りだった。足許の市場の関心は、日米金融当局の政策判断よりも23日に実施される欧州連合 (EU) からの離脱の是非を問う英国民投票にあるとの見方が大勢で、昨日の相場が大荒れになるとは予想し難かった。これまで日銀会合の結果が発表される時間は、現状維持の決定でも昼過ぎになることがほとんどだった。しかし、昨日は市場に気を遣ったのか解らないが、12時前に早々と発表された。さすがに発表直後の反応は静かだったが、瞬時に1円以上も円買いが進んでしまった。ロンドン勢が参入して来る時間には、更に1円下げ、ほぼ2年ぶりの103円50銭台まで円が上伸した。昨年是一年を通して10円程度の変動幅しかなかったドル/円だが、今年は昨日までで18円も動いた。昨年の倍近い変動幅になっていることや、今月だけで7円以上も円高に振れていることを考えれば、これ以上の円買いは難しい気もするが、市場には円高継続との見方が多い。英国民投票の結果によっては100円の大台割れもありそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。